

大豆情報第4号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

8月1日～25日の気象は、平均気温28.0℃（平年比+1.0℃）、降水量655mm（平年比370%）、日照時間192時間（平年比91%）で推移しました。

大雨による冠水の影響で生育がやや抑制され、枯死したほ場もみられますが、7月5日播きで、8月18日頃に開花しています。まだ開花をしていないほ場では、下記2. 雑草の除去の項目にも注意して栽培管理を行ってください。

1. 乾燥対策

排水良好のほ場においては、可能であれば乾燥対策として、開花期以降のうね間かん水を行いましょ。う（目安：無降雨が7～10日続いた場合）

※うね間かん水は中耕・培土を実施した場合に限り、気温が下がる夕方以降に実施してください。ほ場に水が行き渡ったら水を止め、ただちに落水してください。

2. 雑草の除去

ホソアオゲイトウ、アサガオ類などの難防除雑草は結実する前までに、できるだけ早めの手取り除草を行いましょ。

イネ科雑草が多い場合はポルトフロアブルによる雑草防除を行ってください。

ホソアオゲイトウ、アサガオ類は大豆の開花期になると、除草剤（大豆バサグラン液剤）は使えませんので、手取り除草を行いましょ。

【イネ科雑草】

ポルトフロアブル（200～300ml/10aを水100ℓ、収穫30日前まで）

3. 病害虫の発生状況と防除

(1) 紫斑病防除（防除適期：開花後3～5週目）

紫斑病は多湿条件で多発し、品質低下につながるため防除を徹底しましょ。

(2) カメムシ防除（防除適期：9月中旬～下旬の開花後30日前後）

吸汁害による品質低下や青立ち株の発生を防ぐため、防除を徹底しましょ。発生が多い場合は、2回目の防除を1回目の防除の7～10日後に行いましょ。

(3) ハスモンヨトウ防除（防除適期：8月下旬以降）

ハスモンヨトウの食害による減収量は、8月下旬～9月上旬の開花期7～20日頃が大きい。ほ場で白変葉を見かけたら、白変葉の除去を行い、直ちに防除を行いましょ。

※また、ミツモンキンウワバの発生が多い場合は、ハスモンヨトウと同時防除を行いましょ。

(4) フタスジヒメハムシ（防除適期：9月～10月頃）

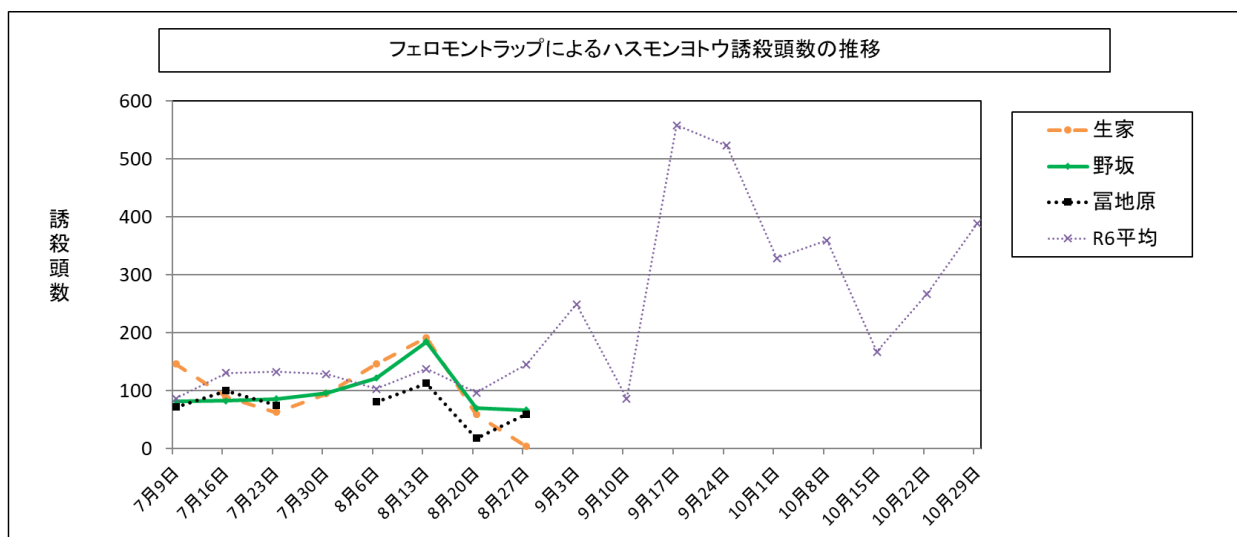
成虫は、葉、莢を食害するため、多発時は子実肥大期に防除を行いましょ。



ミツモンキンウワバ(左が成虫、右が幼虫)



フタスジヒメハムシ



★主な病害虫の薬剤防除

防除時期	剤型	薬剤名	対象病害虫	使用時期	使用量 (10a 当たり)
8月末 ～ 9月上旬	粉剤	トレボン粉剤 DL	ハスモンヨトウ カメムシ類 フタスジヒメハムシ	収穫14日前まで	4kg
	液剤	ノーモルト乳剤 (2,000倍)	ハスモンヨトウ	収穫14日前まで	100ℓ
9月中旬 ～ 9月下旬	粉剤	スミトップ M 粉剤	紫斑病、カメムシ類、 マメシンクイガ	開花期～若莢期 但し収穫21日前まで	3～ 4kg
	液剤	プロフレア SC (4,000倍)	ハスモンヨトウ	収穫前日まで	100ℓ
		スタークル液剤 10 (1,000倍)	カメムシ類 フタスジヒメハムシ	収穫7日前まで	
	液剤	トップジン M 水和剤 (1,000倍)	紫斑病	収穫14日前まで	
10月上旬	粉剤	スタークル粉剤 DL	カメムシ類 フタスジヒメハムシ	収穫7日前まで	3kg
	液剤	スタークル液剤 10 (1,000倍)	カメムシ類 フタスジヒメハムシ	収穫7日前まで	100ℓ

※スタークル剤は吸汁阻害効果と残効が長い。スタークル剤の使用は2回まで。

★農薬を正しく安全に使用しましょう！！

- ① 散布前に必ずラベルを確認
- ② 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底
- ③ 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄
- ④ 防除履歴の正確な記帳